

6 運行方式を検討中

どうして検討している？

名鉄から、今後、利用者がコロナ禍前には戻らない見込みであることや物価上昇による経費増加が今後も続く見込みであること、安全運行を維持するためには老朽化した設備の更新投資が必要であることから、現在の支援金による方式では将来にわたって持続的に運行することが難しく、地域の公共交通ネットワークとして持続可能な運営方式を検討する必要があるとの見解が示されているからです。

定時性、速達性、大量輸送などの観点から、どのような交通手段が最適か、鉄道を存続させる場合にはどのような方式が最適かを検討しています。

どんな方法がある？

鉄道を存続する場合

- 上下分離方式
鉄道施設(車両・施設・土地)のいずれかまたは全てを自治体が所有・維持管理
- みなし上下分離方式
鉄道施設を鉄道事業者が所有し、維持管理の経費相当額を自治体が支払う
- 第3セクター化
民間企業と自治体が共同出資して鉄道会社を運営

別の交通手段に転換する場合

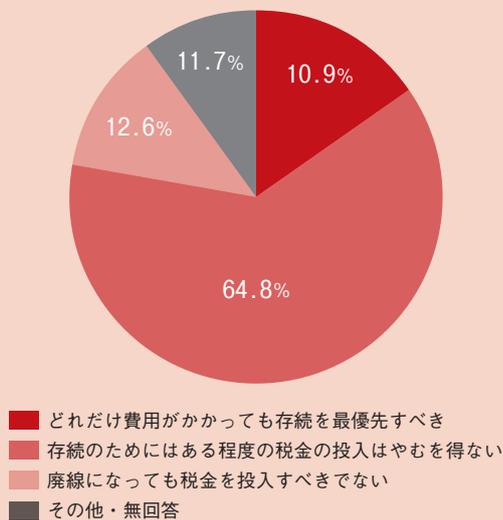
- 路線バス転換
- BRT(バス高速輸送システム)転換
バス専用道を作るなどバスの輸送力を強化



4 通勤・通学に必要な足

市が令和6年7月に行った市民アンケートでは、にしがま線の存続は「どれだけ費用がかかっても最優先すべき」「ある程度の税金の投入はやむを得ない」と回答した人が約76パーセントでした。通勤・通学や観光の足として、いつでも利用できる安心感を与える存在として、この地域になくってはならないものです。

沿線市の今後の費用負担のあり方



5 もし鉄道がなくなると

移動手段が鉄道から自動車に代わると、交通渋滞が起こりやすくなります。また、通学の足がなくなり、未来ある子どもたちの進路選択に支障が出る可能性もあります。さらに、地価が下落することで税収が減り、これまでできていた市民サービスが提供できなくなるかもしれません。

他のローカル鉄道の例を見ても、廃線による地域の衰退は目に見えています。鉄道がなくなると、利用者だけでなく普段鉄道を利用しない人へも影響が出ると予想されています。

にしがま線の これから

にしがま線は、地域内外をつなぐ中心的な公共交通機関であり、将来にわたって住みたい、住み続けたいと思えるまちづくりのための重要な役割を担っています。にしがま線への支援は単なる赤字補填ではなく、地域を支えるための、そして社会や産業の重要な基盤を守るための投資です。子どもや若者たちの夢や希望をこれからも運び続けられるように、にしがま線は必ず残していかなければなりません。

本市は、令和8年度以降の存続を大前提に、将来にわたって持続可能な鉄道として、どのような方式であれば財政負担を抑えながら運行できるのかをしっかりと見定めていきます。また、国の交付金を活用し、利便性の向上につながる取り組みを進めていくなど、今後もにしがま線利用者の維持・確保に努めていきます。

